

SSKW 川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所 長 関山 進
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 伊藤 實
〒210-0834 川崎区大島 1 - 8 - 6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電 話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
E mail zksk@nifty.com
<http://kawashinkyo.org>

第 9 回 手をつなぐフェスティバル 開催



（三田村副市長からの表彰状授与の様子）

令和 7 年 11 月 29 日（土）にとどろきアリーナにて、「川崎市障害者週間記念のつどい」が第 9 回手をつなぐフェスティバルと共同開催されました。障害のある人もない人も共に生きるノーマライゼーションの考え方に基づき、より豊かな社会の実現をめざして、障害者週間の記念行事として毎年開催しているもので、地域において障害者福祉に貢献されてきた方の功績を称え、表彰するものです。

日本における「障害者週間」とは、障害者

基本法に基づき、毎年 12 月 3 日～12 月 9 日までの一週間と定めています。

障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加すること等を促進するため、国及び地方公共団体が民間団体等と連携し、「障害者週間」の期間を中心に障害者の自立及び社会参加の支援のための様々な取組が実施されています。そのため、期間中には全国で障害のある方に関する各種のイベント、例えば、展示会や講演会、スポーツ大

会、文化イベントや記念行事などが開催されます。川崎市では障害者週間記念のつどいが開催されています。



(受彰者の皆様)

障害者週間記念のつどいは、初めに主催者を代表して三田村有也副市長よりご挨拶があり、続いて原典之川崎市議会議長よりご祝辞がありました。福祉功労などで表彰される皆様のこれまでの活動と障害者週間のポスターの入賞作品に込められた思いについての紹介がなされた後に、三田村副市長より受彰された方々へ表彰状が授与されました。式典終了後に表彰された皆様を中心として記念撮影が行われました。受彰された皆様、誠にありがとうございます。（事務局）

表彰された皆様

身体障害者更生援護功労者

塚越 かよこ 様	点訳奉仕活動
村岡 早苗 様	音訳奉仕活動
竹山 治子 様	更生援護

身体障害者特別表彰者

高橋 一昭 様	特別表彰
---------	------

心身障害児(者)福祉功労者（育成功労者）

三浦 ひろみ 様	育成功労
----------	------

心身障害児(者)歯科治療事業功労者

中田 伸一 様	歯科医師
---------	------

障害者週間のポスター入賞者

水野 由佳子 様	小学生部門／最優秀賞
横山 みなみ 様	中学生部門／最優秀賞

実行委員長から一言

11 月 29 日(土)に、とどろきアリーナにて「手をつなぐフェスティバル」が開催されました。2015 年に始まったこのイベントも、早いもので今年は 9 回目となりました。途中コロナ禍で中断し、再開後は時間短縮で開催していましたが、今回は少し延長して 14 時まで開催されました。

当日は、オープニングの「HIRA☆DAN」のダンスパフォーマンスで幕を明けました。ここ数年、イベント開始時の盛り上がりは足りない印象だったので、最初に勢いよく始められて良かったと思います。メインアリーナ内では同時進行で、カラーリングやボッチャなどの体験コーナーが開かれ、初めての方も経験者の方もそれぞれ楽しまれていました。

また、福祉施設の製品販売コーナーでは、各施設の利用者・職員の方が趣向を凝らしたブースを設け、来場者に製品のアピールをしていました。特に手作りお菓子などは早々に売れてしまうなど、人気の高さが伺えました。



(上：車いすバスケット、下：カラーリング)



（キットパス）

またロビーには喫茶コーナーがあり、訪れる方に憩いのひとときを提供していました。

当日は少し寒かったのですが、アリーナの外のレンガ広場では、来場者の方が消防車・パトカーと記念撮影したり、「キットパス号」に特殊なクレヨンで絵を描いたり、中華料理の移動販売車でお昼を買ったりする姿が見られました。

昼からはステージで「川崎市障害者週間・記念のつどい」として、福祉功労者や障害者週間ポスター入賞者の表彰も行われました。川崎市副市長をはじめ、多くの来賓の方々にご出席いただき、厳かに式典が実施されました。

その後、ステージでは、多くの来場者の方が楽しみにされていたスタンプラリー抽選会が始まりました。各コーナーでスタンプを押した方が参加できる目玉企画です。皆さん、自分の抽選券を握りしめ、当選番号が発表されるたびに一喜一憂されていました。それまで会場を巡っていた「うさっぴー」「ノルフィン」の着ぐるみもステージに集合し、プレゼ



（福祉施設の製品販売コーナー）

ンテーターを務めるなど、大いに盛り上げてくれました。特に、目玉中の目玉である、川崎フロンターレと川崎ブレイブサンダースのサイン入りユニフォームの抽選時には、大きな歓声があがっていました。

そして、イベントのフィナーレを飾ってくれたのは「サニーフラワーダンス」による、パフォーマンスでした。カラフルな衣装で来場者の方も巻き込んで踊ってくれて、賑やかなエンディングとなりました。その余韻のまま閉会宣言を述べ、無事に終了となりました。

今回も、多くのボランティアさんや協力団体、各施設の職員からなる実行委員会、川崎市の協力もあって、楽しい一日になったと思います。欲を言えば、もっと多くの方に来てもらい、知ってもらえるとよいのですが、そこは今後の課題の一つでもあります。



（ステージでのダンス）

なお、来年度はとどろきアリーナの改修工事のため、場所を「カルッツかわさき」に移して令和 8 年 11 月 21 日（土）に開催することが決定しています。10 回目にして初めての場所なので、イベント内容や宣伝等、見直しや工夫をして臨みたいと考えております。もしよろしければ、ぜひお越しいただきたいと思っています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

（第 9 回手をつなぐフェスティバル

とまりのぼる
企画実行委員長 泊昇）

「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」特集①

「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025（東京 2025 デフリンピック）」を今号から 2 回にわたり特集します。

デフリンピックとは…

デフリンピックとは、デフ+オリンピックということで、デフ（Deaf）とは、英語で「耳が聞こえない」という意味です。デフリンピックは国際的な「聞こえない・聞こえにくい人のためのオリンピック」なのです。

国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4 年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会です。第 1 回は、1924 年にフランスのパリで開催されました。東京 2025 デフリンピックは、100 周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。

国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴です。

デフリンピックには、①「補聴器」などを外した状態で、聞こえる一番小さな音が 55dB

（※）を超えており、②各国の「ろう者スポーツ協会」に登録されている選手で、記録・出場条件を満たしている人が参加できます。
※dB（デシベル）は音の大きさを表し、数字が大きいほど音が大きいということになります。55dB はふつうの声での会話が聞こえない程度となります。

川崎市から出場する選手の紹介…

か が や け い い ち
加賀屋 圭一 選手（ハンドボール）



デフハンドボールは今回が初めての参加

なので不安と緊張でいっぱいです。選手としては小柄なので、体の大きさでは外国の選手に敵わないかもしれません。ですが、気持ちでは負けずに 1 つ 1 つの試合に勝てるよう頑張ります！みなさん、応援よろしくお願いします。

競技の特徴…聞こえる人と同じルールで競技します。アイコンタクト・手話・ジェスチャーなどを用いてチーム内でのコミュニケーションを取っており、もちろん審判もハンドジェスチャーを用います。

き む ら お き む
木村 修 選手

（オリエンテーリング）



オリエンテーリングは多くの方がイメージしているレクリエーション的なものとは異なり、起伏のある道無き森の中をナビゲーションして走るタフな競技です。

私は大学時代に本格的にオリエンテーリングを始めてから、競技歴は既に 40 年以上になります。おそらくこの競技出場者の中では最年長でしょう。年齢・体力的には若手に勝てませんが、この競技はナビゲーション技術が重要であり、伊豆大島の難しいトレイン（競技エリア）では上位に食い込めると 생각합니다。応援よろしくお願いします。

競技の特徴…地図とコンパスを活用し、山野に設置されたチェックポイントを通過しつつゴールに着くまでの「速さ」を競う競技です。山野を走破する能力、地図を読み進路選択する決断力などがトータルに要求されます。

はまや しゅうへい

濱谷 秀平 選手（射撃：10m エアライフル）



今回の東京 2025 デフリンピックでは、競技を始めて 1 年での挑戦となります。東京で開催されることもあり、そういった意味で記念出場ではなく挑戦者として挑み、デフリンピックを盛り上げ、最終的には振り返っていただけるような大会にしたいと思います。応援よろしくお願いします。

競技の特徴…ライフル銃を用いて標的を撃ち、その精度の高さを競う競技です。エアライフルは、立射という不安定な姿勢のため銃と体のコントロールが最も難しい種目です。

ひらおか さゆり

平岡 早百合 選手（バレーボール）



デフスポーツがどんな競技なのか、是非、足を運んでいただき、実感してもらえたら、私たちはとても嬉しいです。デフリンピックが東京で開催されることはとても楽しい気持ちでいっぱいです。バレーボールは会場が一体となって、応援できるポーズがあるので、みなさんと一緒に盛り上がっていききたいと思います！たくさんの応援、よろしくお願いします。

競技の特徴…デフバレーでは、ボールの弾く音などコート上での全ての音が聞こえません。手話・読唇・アイコンタクトなどで瞬時に意思疎通し、高度なコンビバレーを発揮します。

大会の概要

正式名称：第 25 回夏季デフリンピック

競技大会 東京 2025

略 称：東京 2025 デフリンピック

大会期間：11 月 15 日～26 日（12 日間）

参 加 国：70～80 か国・地域

参加者数：選手 約 3,000 名、

役員等を含め総勢 約 6,000 名

会 場：東京体育館、駒沢オリンピック

公園総合運動場陸上競技場など

競 技 数：21 競技

〔陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレーボール、ボウリング、自転車（ロード／マウンテンバイク）、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、レスリング（フリースタイル／グレコローマン）〕

大会ビジョン：①デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ

②世界に、そして未来につながる大会へ

③“誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現



（川崎市長表敬訪問）

（川崎市ろう者協会 広報部）

川崎市内の福祉施設紹介「たちばな」



(施設外観 外装は最近塗り直されました)

社会福祉法人ともかわさき たちばなは、昭和 62 年 4 月 1 日から財団法人川崎市心身障害者地域福祉協会としてスタート。その後、平成 17 年に社会福祉法人ともかわさきに事業移行となり、その翌年改築工事がなされ、今のたちばなとなりました。

たちばなの利用者さんは、定員 34 名で現在は 28 名の方が在籍しています。男性 19 名に女性 9 名、平均年齢は約 40 歳、20 代から 50 代の方が万遍なくいらっしゃいます。施設内は、2 階建てとなっており、1 階には 2 フロアがあり、2 階にも活動スペースが 1 つあり、合計 3 フロアを使い 3 グループに分かれて活動をしています。基本的には、利用者さんの活動ペースや過ごしやすい環境、利用者さん同士の相性などを考慮して別れていただいています。でも、だからと言って 3 グループ間の行き来がないわけではなく、時にはお互いのスペースにお邪魔して活動することや、お話をしたりすることもあります。

たちばなでは、主に利用者さんの日中活動の支援を行っています。一人一人の思いを大切にしながら、作業・課題・自主製品の他、“自分のやりたいこと”をプログラムの中に取り入れて、個々のペースに寄り添った活動を行っています。また作業以外にも、パラアートやドライブ・行事なども行っています。

行事は、小グループで出掛けるものや、大



(各フロアの様子)

型バスで行く日帰り旅行など様々です。パラアートでは、利用者さんの力作を展示会にも出しています。

さて、たちばなの特徴として挙げられるものと言えば、自主製品もそのひとつです。主に作っているのが、EM ぼかしとアロマキャンドルです。EM ぼかしは、EM 菌と米ぬか・もみ殻・糖蜜・水を混ぜて作る有機肥料です。元肥や追肥としてや、少し手間は掛かりますが、生ごみを堆肥化することもできます（詳しく知りたい方はたちばなまで）。完成までには、材料を混ぜたあと密閉容器で保存し、約半年から 1 年の発酵期間が必要となり大変手間暇がかかっています。アロマキャンドルは、ろうそくを溶かして様々な形に成形し、中にキューブ状のろうそくを入れてカラフルな仕上がりとなっています。また、ほんのりと香るアロマもお楽しみいただけます。



(EM ぼかし)



(アロマキャンドル)

たちばなに、興味がある方は見学を受け付けていますので、ご連絡をお待ちしています。

(生活介護たちばな ^{つかだまきのり} 塚田雅典)

〈見学・製品等お問い合わせ先〉

社会福祉法人ともかわさき たちばな

〒213-0025 川崎市高津区蟹ヶ谷 339

TEL : 044-755-2609 FAX : 044-755-2741

E-mail : tachibana@tomokawasaki.or.jp

法人 HP : <https://www.tomokawasaki.or.jp>

「指先で世界をなぞりながら」 -アイメイトの編み物の輪で感じたこと-

編み物の集まりの場に足を踏み入れた瞬間、私は空気の明るさに少し驚いた。

毛糸の手触りを確かめるような指先の動きと、ゆっくり流れる会話。みんな視覚障害があり、しかも高齢だ。最も高齢の菊地さんは 92 歳。場は静かな活気に満ちていた。オストメイトの集まりも明るいが、この編み物の場にはまた別の芯の強さがあった。生きづらさを抱えながら、なお手を動かし、誰かとつながる。その営みが、淡い光のように部屋を照らしていた。



(エコな小物入れ)

代表の大瀧純子さんは全盲だ。「視覚障害の仲間が、気軽に会える場所をつくりたかった」と語る。最初は、ただおしゃべりしたい、誰かと時間を過ごしたい……そんな小さな願いが出発点だった。やがて「何か作ってみようか」と話題がふくらみ、手芸の得意なメンバーが毛糸を手にとった。

「目が見えないのに、編み物なんてできるの？」多くの人が抱く疑問だろう。けれど、視覚障害者の生活はもともと指先で世界を確かめる行為の連続だ。点字も、物の位置も、すべて指先から読み取る。だから毛糸の太さや段差、編み目の落ち具合までも、指先がそっと教えてくれる。

手作りの作品は小中学校のバザーや福祉まつりで販売されるようになった。「自分たちが作ったものを誰かが買ってくれる」、その実感が、この会を 10 年以上続けさせてきた。

メンバーの言葉は、どれも力があつた。中でも印象に残ったのが、斉藤信子さんだ。彼女は静かに、でもどこか明るくこう話した。「35 歳の時に見えなくなったの。見えなくなることがどれほど重大なのか、その頃の私はまた見えるようになってしまったから、よくわからなかった。でもね、つらかったことは、いつの間にか忘れちゃったの。」その言葉には、悲しみを押し殺した暗さではなく、長い時間をかけて受け入れてきた人だけの穏やかさがあつた。私は「痛みを乗り越えた」というより、「痛みを抱えたまま時間がやわらげてくれた」のだ、と思った。

菊地笑子さんは弱視で、「見えないなりの方法があるのよ」と笑う。千葉はるみさんは元美容師で、難病から視力を失った。「子どもの頃から編んでいたから悩むことはなかったの」と、その表情はどこか昔の自分に向けられているようだった。中西富士江さんは盲学校で覚えた編み物をここで再開した。竹山治子さんは弱視なのでミシンが踏める。「不器用でも、自分でやる方が楽しい」と照れくさそうに笑った。



(アイメイトの皆さん)

そして、この会を陰で大きく支えるのがボランティアの存在だ。色の確認、細かなパーツ作り、移動のサポート。「先に手を出さず、見守る」ことを心掛けているという関口さんは、真剣な表情で「見えている私たちができないことを、あの人たちはできる。本当に尊

敬しています」と語る。また、ボランティアの岡野さんは、「冗談だと思った」と笑いながら、初めて作品を見たときの驚きを語った。技術を補い合い、できないところは誰かが自然に支え合う。その空気が、この会の独特の温度を作っているのだと思う。

「アイメイト」という名前は大漣さんの創案だ。「会いメイト」、つまり「会いに行く仲間」。障害の有無に関係なく、月に一度会って、手を動かし、おしゃべりして…。気づけば一日があっという間に過ぎていく。私はオストメイトとして、この光景に一つの答えを見た気がした。痛みや不安を完全に取り除くことはできない。でも、誰かと話しながら小さな作業を重ねるだけで、心の重さが少し軽くなる瞬間がある。あの明るさの源は、編み物が得意だからとか販売が成功しているからではない。「誰かとつながって生きていく力」—その手触りが、指先から伝わってくるのだ。アイメイトの輪は、ただのサークルではなく、困難の中で自分を見失わず、日常を取り戻していくための「ひとしずくの灯り」のように思えた。

（広報・啓発委員 さかもとじゅん 坂本純）

楽しく健康に（脊損研修会）

令和 7 年 10 月 19 日（日）、川崎市国際交流センターにて、「健康エクササイズ&脳の活性」をテーマに“楽しく健康になれる”研修会を開催しました。

第一部では、講師の高垣茂子氏（健康運動指導士）から、深い呼吸には疲労回復を早め心理的安定を増す効果があり、その大切さのお話をいただきました。続いて、折り紙で作った風車に竹ひごを通し、息を吹き風車を回す呼吸筋強化法や、布紐を 2～3 センチ幅でたすきのように輪にして両手を通し、上げ下げするなどの手軽にできる体操の指導や、誤嚥予防のための唾液が出やすくなるマッサー



（健康エクササイズ）

ジ、歌を歌っての口の体操をご指導いただきました。

第二部は、京極浩氏（きょうごくひろし アクティブ・ブレイン協会認定講師）に、脳を活性化するためにはプラスの意識や感受性を豊かに持つこと、「ありがとう」など感謝の気持ちを口に出して伝える事が重要なこと、また「無理ィー」「年だからー」は禁句ワードで脳の活性化を妨げる事などを説明していただきました。

お二人の講義は、とても和やかで楽しい時間でした。

（脊損川崎協会 たなべまさみ 田辺昌美・きたじま 北島さとみ）

編 集 後 記

今年もインフルエンザが流行しています。早めにインフルエンザワクチンの予防接種を。なお、川崎市での高齢者等を対象とした定期予防接種は次の通りです。詳細は医療機関へお問い合わせを。

対象：市内在住の 65 歳以上の方、心臓・腎臓・呼吸器機能障害 1 級の方等の場合には 60 歳以上の方

費用：自己負担金 2,300 円（税込）

※市県民税非課税世帯、生活保護世帯の方等は自己負担金免除

（広報・啓発委員 みやたまさゆき 宮田正行）

発行人 （特非）障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3 丁目
1 番 17 号 102 （頒価 100 円）